

# 帝国主義とのたたかいで求められる 共通の革命思想



ヨーロッパ・チュチェ思想研究会書記長

ユハ・キエクシ

今日、わたしたちは、グローバリゼーションがいまだに猛威をふるっている時代に生きています。これは本質的に帝国主義がいまだに生き残っていることを意味します。資本主義が経済制度として存在する限り、資本主義には危機がつねにあります。資本主義における危機は、内在する法則から生じています。資本家は市場における自己の地位を維持するために、搾取の度合いをつねに高めていく必要があります。これは、「利益率の傾向的低下の法則」と関連しています。

利益率とは、投資された資本に対する利益の割合を示す指標です。資本主義には、利益率の傾向的低下を引き起こす内部矛盾があります。利益率の低下は、資本家による利益率の傾向的低下を補うための搾取の強化、賃金の引き下げ、労働条件の悪化をもたらし、資本家が新しい市場や投機的投資を求めることにより、資本主義体制の危機は長期性をおびます。利益率の傾向的低下は労働と資本の間の矛盾を深め、労働者がますます搾取され、最終的には、資本主義制度を維持すること自体が困難になります。

資本家は、帝国主義的な圧力を強化することで、利益率の傾向的低下を回避しようとします。この圧力は、とりわけ朝鮮民主主義人民共和国、中国、キューバ、ベネズエラなど社会主義を建設している国々にむけられています。

フィンランドの例を挙げますと、ウクライナ危機が始まった際、実際にはもっと前の2014年に、フィンランド政府はNATOに歩調をあわせ、ロシアに反対する政策を取りました。この政策によりフィンランドの軍事予算が大幅に増加し、フィンランド経済は恒常的な不況に陥りました。フィンランドはロシアとの国境を閉鎖しました。その結果、フィンランド東部は、ロシア人観光客からの観光収入を毎日100万ユーロ失うような状況になっています。

NATOは、フィンランドとスウェーデンに自己の軍事基地網をはりめぐらしつつあります。フィンランドとスウェーデンの両国は、自らの政府が管理できない基地をアメリカに提供しています。帝国主

義反動勢力による次のロシアへの攻撃は、フィンランドを通じてなされていく可能性があります。

ウクライナを支援し、軍事費を増加させた結果、北欧の福祉国家は解体されつつあります。北欧諸国では、教育水準が低下し、公共医療の受診がますます困難になっています。そんななか、労働条件は悪化し、労働者のストライキの権利が制限されるようになりました。

フィンランドのメディアは、かなりの部分で大資本家の手に握られており、今日、フィンランドには自由で独立したメディアが存在していません。現政府の政策を批判することは事実上不可能です。大資本によるメディア独占のため、フィンランドの多くの人々は、このような政策が彼らの生活を悪化させているにもかかわらず、政府の政策を支持するようになっています。

ここでわたしが言いたいのは、資本主義がすべての人々に幸福をもたらすことは決してないということです。資本主義においては、富裕層がますます富み、その他の階層の人々は帝国主義によってもたらされた結果に苦しむということです。

わたしたちはまだ、資本主義から社会主義への移行期に生きています。資本主義から社会主義へ、階級社会から階級のない社会への移行は、徐々に進行するものではなく、革命を必要とします。革命の実現にはいくつかの要素が必要ですが、その中でももっとも重要なのは、各国の状況にもとづいて革命をおしすすめるための体系化された思想と理論です。

人々の思想意識を変えることは、社会を改革することよりも難しいことです。

金正日総書記は、このことについて、さまざまな機会に、社会主義を建設している国々や社会主義思想全般に対して、ブルジョア階級がどれほど強力に反動的な宣伝をおこなっているかについて述べています。

進歩的な思想意識を人々のあいだに広めていくことは、とりわけ西側諸国において、現在もっとも重要な課題となっています。ブルジョア階級は、自己の思想を広めるたたくいにおいて有利な条件をもっています。これにより、資本主義にもとづく個人主義や、資本家のあくなき欲望にたいしてなんの批判も加えられることなく、それが野放しにされている状況が生まれています。

資本主義は、個人主義を資本家の無制限な欲望へと変えていきます。その結果、個人主義にもとづいて社会の対立が極度に強まりました。わたしたちは、世界でもっとも裕福な10人が、コロナ禍の過程で、資産を倍増させたという報道を目にしました。その一方、圧倒的多数の人々は、資本主義の搾取の対象となり続けています。

ブルジョア階級は「人間は本質的に欲深いから、社会主義は機能しない」と主張しますが、これは真実ではありません。金正日総書記は、1994年の著作『社会主義は科学である』の中でこの点を明確に解説しています。

個人主義にもとづく社会を集団主義にもとづく社会へと変革することは、歴史発展の必然的な要求です。集団主義は人間本然の要求です。人間は、社会的集団の一員として機能するときのみ存

在し、発展することができます。

民衆は、社会の構成員として集団的に協力することで初めて、自然や社会を改造し、自主的要求を満たすことができます。社会的集団を構成する一人ひとりにも、自主的要求があります。その場合、個々の自主的要求とは、各自が社会的集団の平等な一構成員であろうとする要求です。

社会的集団を構成する一人ひとりが有する、各自の自主的要求は、集団主義を離れたすべてを自己の個人的な利益に従属させる自己中心的な要求とは根本的に異なります。このような要求は、社会的集団の他のメンバーの自主的要求を侵害し、社会的集団の団結と協力を害を及ぼします。

社会的集団の中で一人ひとりの自主的要求を適えていくことが、人間の自然な生存方式であり、各自の自主的要求は、集団主義によってのみ満たされるため、集団主義にもとづく社会、すなわち社会主義および共産主義社会は、人間の自主性にもっとも適った、もっとも進歩的な社会形態です。

科学的社会主義の創始者であるマルクスとエンゲルスは、自分たちの時代の資本主義社会を分析し、社会の経済的基盤と上部構造について正しく解説しました。もちろん、彼らは次の千年紀における社会主義建設が直面する課題を予見することはできませんでした。レーニン、帝国主義論を著すことにより、科学的社会主義学説を発展豊富化させました。レーニンの帝国主義論は、100年以上前の資本主義の現象を見事に分析しました。

西ヨーロッパでは、多くの社会主義運動家たちがマルクス・レーニン主義やトロツキズムに固執しており、その思想の教条的な支持者となっています。わたしたちは、国の自主性にもとづく社会主義思想を継続的に発展させていく必要があり、そうすることで、社会変革のための共通の戦略戦術をうちだしていくことができます。

朝鮮では、金日成・金正日主義が約80年にわたって発展豊富化されてきました。この学説は、朝鮮社会主義の内的発展、大衆の能動的かつ創造的な役割、そして外部世界の発展を分析検討しています。

「自国の状況にふまえ、自分自身の力に依拠して革命をおこなう」という、金日成主席の革命の出発点が、成功裏に、かつ、継続的に革命をおこなうための唯一の方途であることが証明されています。自力更生とは経済的自立を意味します。経済的自立がなければ、国は他国の支配下におかれることとなります。経済的自立の裏付けがなければ、政治的自主も実現できません。

革命を成功させるためには、人間の基本的な特性について認識し、それをふまえることが決定的に重要です。これにより、革命と社会主義建設をつねに人民の要求にもとづいて進めていくことができます。

国家活動において、団結と意志一致を実現することが、社会を迅速に発展させるうえで不可欠です。しかし、このことは、人民のさまざまな意見や見識が考慮されないということではありません。人民の創造性とは、人民自身が革命と建設で提起される問題を自分自身で解決していくということを意味します。金日成主席は、党活動においてこのことの重要性を何度も強調されました。

人民の創造性を最大限に活かすためには、多岐にわたる自主性の確立が求められます。ひとたび

自主性が確立されれば、革命の前途は洋々たるものとなります。どのような目標であっても、民衆が合意し、民衆の創造性を社会主義建設に活かすならば、達成することができます。

金日成主席によって創始されたチュチェ思想は、金正日総書記によって、そして、こんにちでは金正恩総書記によって見事に発展豊富化させられました。世界のどこにも、朝鮮民主主義人民共和国ほど科学的にかつ揺るぎなく社会主義理論がきずかれ、21世紀においてその理論の正当性が実践で検証された国はありません。理論が実践に適用されるなら、実践で難題が提起されたとしてもそれを迅速に克服することができ、革命と建設が停滞することはありません。このことはまた、外的要因が社会主義の前進を阻む決定的な障害とはならないということを示しています。

金日成・金正日主義は、世界中どこでも適用できる唯一の革命思想です。これは、金日成・金正日主義において、人間の基本的な特性が正しく理解されているということ、また、金日成・金正日主義が、自主性と自力更生を強調し、各国の個別の状況や要求にしっかりとふまえることを重視しているからです。

朝鮮民主主義人民共和国では、金日成・金正日主義の威力が実証されており、コロナ禍や自然災害、帝国主義による深刻な経済制裁やたえまない圧力など、きわめて困難な外的試練に遭遇してきたにもかかわらず、社会主義が強化され、人民の生活水準が年々向上しています。

他の国では、朝鮮のように、遭遇する困難を乗り越えることはできなかったでしょう。しかし、すべての国々に、自主的に自国の進路をきりひらいていくチャンスがあります。ただ、そのためには、すべての国々が、金日成・金正日主義を自国の具体的な条件に即して適用していかなければなりません。

資本主義は、一部の国を除き、依然として強固にその地位を保っており、資本主義諸国内の人々の不満は高まっています。世界のごく少数の人が大部分の富を保有していることをわたしたちは、認めることができません。結果としてこのことが、世界の多くの国で飢餓と国全体の隷属をもたらしています。「帝国主義の影響をうけない資本主義の枠内で、改善を図ろうなどという考えは不可能である」と、いまではだれもが理解すべきなのです。

チュチェ思想にもとづいて、わたしたちはより公正な世界をきずくことに着手できると、わたしは確信しています。したがって、チュチェ思想を研究し、朝鮮におけるその適用についての理解を深め、チュチェ思想を広く普及していくことがもっとも重要です。

とりわけ、域内の各国政府が米帝国主義を多面的に支持し、その政策の拡大に協力しているヨーロッパでは、チュチェ思想研究普及活動が極めて重要です。この活動において、ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会は重要な役割を果たしています。わたしたちは、チュチェ思想をより深く研究し、その威力をヨーロッパでさらに強めていく必要があります。

金日成主席が創始し、金正日総書記と金正恩総書記によってさらに発展豊富化されている、独自のチュチェ思想以外に、世界が直面している問題を解決し、人民の福利厚生を増進させることができる思想はどこにもありません。